


令和5年度 研究サマリー

研究会名称	腎疾患の発症・病態生理と進展防止に関する研究会	
代表者所属	東京女子医科大学 腎臓内科	
代表者氏名	新田 孝作	
研究方法・結果	<p>維持透析患者において、骨ミネラル代謝異常(MBD)は予後を規定する因子の一つです。血液透析患者では、MBDと予後に関する報告は多数ありますが、腹膜透析(PD)患者においては少ないのが現状です。本年度は、オーストラリア・ニュージーランド、カナダ、日本、タイ、韓国、英国および米国が参加している他施設共同研究のPDOPPSデータを用いて、PD患者における血清の副甲状腺ホルモン(PTH)およびカルシウムの濃度と総死亡との関係を検討しました。</p> <p>対象は3か月以上のPD治療歴のある症例で、ベースラインのPTH濃度とカルシウム濃度は、14,244例から得られました。血清PTH濃度は6群に分割して、Coxモデルで比較したところ、PTH濃度と予後との関係はU字型を示し、PTH 300-599 pg/mLで予後が最も良いという結果になりました。一方、カルシウム濃度を4群に分割して検討したところ、8.4-9.6 mg/dLの群に比較して、9.6 mg/dL以上の群で、予後が20%悪いという結果になりました。これらの結果から、PD患者におおいては、目標とするPTH濃度とカルシウム濃度に関して再考する必要があると考えられました。ただし、参加国の治療目標が若干異なることと治療薬の種類が同一ではないことを考慮すべきです。</p> <p>この結果は、フィラデルフィアで開催されましたASN 2023で発表し、Perit Dial Int 2024, March 19に掲載されました。</p>	
研究成果(論文、学会発表、雑誌掲載等)	Nitta K, Bieber B, Karaboyas A, Johnson DW, Kanjanabuch T, Kim YL, Lambie M, Hartman J, Shen JI, Naljayan M, Pecoits-Filho R, Robinson BM, Pisoni RL, Perl J, Kawanishi H. International variations in serum PTH and calcium levels and their mortality associations in peritoneal dialysis patients: Results from PDOPPS. Perit Dial Int 2024, March 19.	